

C—4 団地居住者の家計についての一考察

学習院女子短大 湯本 和子

1. 研究の目的 最近、公団住宅が各地に建設され、団地族の名称を生じるほど特殊な存在となっている。これらの家庭の消費生活の特殊性を、総理府家計調査全都市勤労者世帯と比較し、特に最近の消費者物価の騰貴が、これらの家計にどのように影響したかを見ようと、この分析を行なった。

2. 方法 団地新聞 Key (週刊) に昭和35・36・37年に掲載された家計の中から、有業人員1人の平常月をとり、消費単位当たりの生活費・食物費および住居費を中心として分析を行ない、総理府家計調査全都市勤労者世帯のそれらと比較した。

3. 成果 世帯当たりの実収入は各年とも家計調査のそれより多いが、これは入居者の資格から当然のことである。したがって、消費単位当たりの生活費・食物費も、各年共、きわめて多く、豊かな生活をしていることが見られる。ことに食物費については、エンゲル係数にとらわれず、栄養に重点をおいて運営されていることが見られ、穀類に対する「その他の食物費」の割合がきわめて多い。住居費については、家計調査における住居費は、戦後の特殊事情からきわめて低く(約11%)、殊に家具什器費にウエイトがかかっているが、団地居住者の家計における住居費は約20%で、家賃がその大部分を占めている。